

地方創生・しがブランド推進対策特別委員会 県外行政調査

1 調査日 令和元年10月17日（木）～18日（金）

2 調査の概要

10月17日（木）

(1) 株式会社ドリームファーマーズJAPAN（大分県宇佐市）

調査事項：地域資源である「ぶどう」のブランド化について
グリーンツーリズムの推進について

株式会社ドリームファーマーズJAPANは、西日本有数のぶどうの産地である大分県宇佐市安心院町で若手ぶどう農家が中心となって設立した法人である。

当法人は、地域資源である「ぶどう」を「王さまのぶどう」としてブランド展開するとともに、自社で生産するぶどうや地元の農産物であるミカン、トマトを原料とし、ドライフルーツやコンポートの生産・加工・販売（6次産業化）を行っている。

また、安心院町は農泊発祥の地と言われ、年間約1万人が訪れる地域であり、農泊を中心としたグリーンツーリズムにも取り組んでいる。

については、株式会社ドリームファーマーズJAPANを訪問し、地域資源である「ぶどう」のブランド化やグリーンツーリズムの推進に係る取り組みについて調査を行い、本県における今後の取り組みの参考とした。



(2) 大分農業文化公園（大分県杵築市）

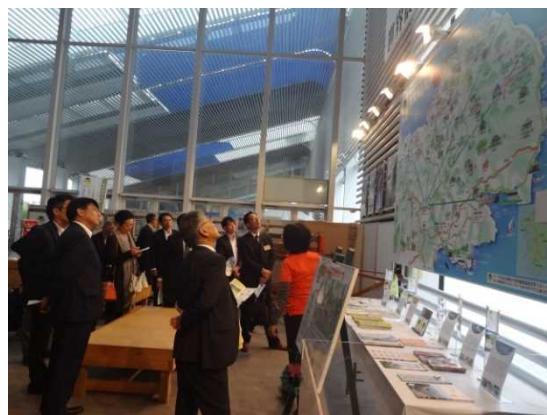
調査事項：施設の概要について

（物産館、交流研修館（世界農業遺産展示コーナー）の見学）

大分農業文化公園は、杵築市山香町と宇佐市安心院町にまたがる広大な県営公園で、農業・農村に対する理解を深めるという目的で平成13年に設置された。

大分県国東半島宇佐地域は、原木シタケの栽培を中心としたクヌギ林とため池群による持続的な農耕文化で世界農業遺産に認定されており、当施設は世界農業遺産の情報発信施設の役割も担っている。

については、大分農業文化公園を訪問し、物産館や世界農業遺産展示コーナー等の施設見学を行った。



10月18日（金）

（3） おおいた留学生ビジネスセンター（大分県別府市）

調査事項：NPO法人大学コンソーシアムおおいたの取り組みについて

（留学生の受け入れと生活面での支援、大学・行政との連携）

おおいた留学生ビジネスセンターの取り組みについて

（留学生の県内定着（就職、起業）に向けた支援、大学・行政との連携）

大分県は人口10万人当たりの外国人留学生数が全国2位であり、人口減少が進む中、地方創生を図る一つの方策として、留学生の受け入れから卒業後の県内定着までの支援に積極的に取り組んでいる。特に、卒業後の県内定着を進めるため、2016年10月に全国的にも例のない、留学生に特化した就職・起業支援施設としておおいた留学生ビジネスセンターを設置し、NPO法人大学コンソーシアムおおいたへの委託により、運営を行っている。

については、おおいた留学生ビジネスセンターを訪問し、留学生の県内定着に向けた支援等について調査を行い、本県における今後の取り組みの参考とした。

